

進学（大学・短大・専門学校）について

1. オープンキャンパス

オープンキャンパス（学校見学会）は通学距離や学校の雰囲気がかかる絶好のチャンスであり、名前や顔を覚えてもらうという効果もあります。学費等のこともあるので、できれば保護者同伴で行くことをお勧めします。

ほとんどの学校は予約不要ですが、医療系や実習体験のある学校・ポリテク等を中心に予約が必要なところもあります。事前に予約等が必要か確認はしてください。

※ オープンキャンパスに参加する場合、事前に「オープンキャンパス参加報告書」を担任からもらい参加後、必ず提出してください。

→ 『指定校推薦入試』を希望する場合はオープンキャンパス、及び校内指定校説明会に参加しないと申し込めません。

（今年度に限りオープンキャンパスに不参加でも申し込めますが、申し込む学校情報についてネット等で調べたうえで報告書の提出は必要です）

【補足】 オープンキャンパスは制服？私服？（よく聞かれる質問です）

基本的には自由ですが・・・迷ったときは正しい制服で行きましょう！

☆ ポリテクは制服で参加すること。

☆ 短大も制服で行くことをお勧めします。

短大の中には、受付で服装態度等をチェックしている学校もあります。

茶髪・メイクなどは論外です。自分で自分の進路を狭めないように！！

☆ オープンキャンパスの AO 相談会場で、エントリーシートをもらいに行った段階でエントリー用の写真撮影を行う学校もあります。

☆ 「受験の時だけ気をつけたらいいける」は通用しません。高校生としてふさわしい身だしなみと行動をとること！！

2. 各入試制度について

(1) 総合型選抜（旧AO入試）

① 総合型選抜（旧AO入試）とは

総合型選抜は大学、専門学校等が学力の3要素（思考力、判断力、表現力）を多面的、総合的に評価するための入試制度です。高校の推薦は不要ですが、高校の「志願者評価書等」が必要な場合もあり、基本的には専願となります。（辞退することができない）比較的其他の入試制度よりも入試説明会やエントリーが早い時期にスタートするケースが多く、オープンキャンパスに行かないとエントリーシートが手に入らなかったり、事前面談を行う場合も多くあります。安易に総合型選抜で進学した場合、思っていたのと違う等の理由で辞める学生もいるので、「早く決めたい」等と単純な理由だけで決めず、必ずたくさんの学校と比較し、メリット・デメリットなどをよく考えたうえでエントリーしてください。

また、合格発表が早いことが多いので、入学金・授業料等の締め切りも早い場合が多いです。そのため、入学金の教育ローンが間に合わないことも多く、注意する必要があります。（合格後1週間以内に入学金及び前期授業料・諸費用が必要な学校も多い）

② 選考方法

各大学独自の評価方法で小論文、プレゼンテーション、口頭試問、実技、各教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の成績等で選考します。

※ 昨年度の入試改革により総合型選抜の方法が大学を中心に変わり、学力重視となりました。活動実績・資格条件を設ける学校が増え、出願資格は学校によりさまざまなので、募集要項を必ずチェックしてください。

(2) 指定校推薦入試

① 指定校とは

りんくう翔南高校に対して特定の大学・短大・ポリテク等の特定の学部・学科から、人数を限って推薦を依頼される入試。評定平均（3年1学期までの全教科もしくは先方の学校が指定する特定の教科の5段階の成績の平均）や出席状況・特別活動等の制限があります。

指定校推薦は学校と相手先との信頼のうえで成り立つものであり、専願であるため、いったん校内選考に申し込んだら、校内選考で選ばれなかった場合を除き辞退できません。そのため、安易に指定校を取りに行くのではなく、より慎重に検討したうえで覚悟をもって指定校推薦に応募するようにしなければなりません。仮に、指定校を辞退した場合、原則として以降の推薦書の発行や就職の斡旋は行いません。

出願は校内選考で合格した者のみが出願でき、指定校決定者への出願説明会で配付する専用出願書類を使い、各自で出願します。

② 指定校に応募する条件

指定校に応募するには次の条件を満たしておく必要があります。

- ・ 推薦条件をクリアしていること
- ・ 校内指定校推薦説明会（7月19日実施予定）に出席していること
- ・ 申し込む学校のオープンキャンパスに出席し報告書を提出していること
- ※ 今年度に限り報告書のみでも応募可とします
- ・ 「指定校推薦」の申し込みをすること（保護者印必要）
- ・ 他の専願入試（総合型選抜など）に出願していないこと
- ・ 校内選考に合格すること
- ※ 指定校校内選考では進学持ち点の高い者から決定します

③ 選考方法について

書類審査に加え、面接・小論文等が中心であるが、実技系の学校では実技や作品を持参したりするところもあります。入試制度の改革により大学等では、学力テストを課すこともあります。

※ 指定校入試受験者は必ず進学者面接指導を受けること

④ 今後のスケジュールについて

今年度はコロナウイルスの影響で予定が変更になる可能性が十分にあるため、進路からの連絡に注意してください。

- ・ 指定校推薦リスト中間発表 . . . 7月19日（月）
- ・ 指定校推薦リスト最終発表 . . . 8月 下旬
- その後の追加はその都度発表します

- ・ 指定校推薦申し込み〆切 . . . 9月 6日（月）
- ・ 指定校推薦第1次校内選考 . . . 9月 8日（水）
- ・ 第1次校内選考の合格者への出願説明会 . . . 9月 9日（木）

→ この時に指定校用出願書類を配布します。出願手続きは各自で行うので、書類をよく読んで期日を守って出願しないとけません。

※ 校内選考不合格者は、第1次校内選考であいている指定校枠に改めて申し込みできます。また、学校によっては後期（2次）指定校推薦入試を募集しているところもあります。

※ 入試は11月初旬～末にかけて公募推薦入試の前に行われることが多いです。

※ 合格発表後、入学金・授業料等の納入期限が早い場合が多いので、教育ローンを利用する場合は払い込みに間に合うか各自確認する必要があります。

(3) 公募制推薦入試

① 公募制推薦とは

一般的な推薦入試で、大学・短大側の条件に合っていれば出願できます。

一部国公立を除き、基本的に出願時の人数制限はなく、基本的には併願制（複数校受験可・合格後の辞退も可）です。入学金・授業料等を払い込んだ後でも入学を辞退した場合、手続きをする入学金を除いた金額が返金される場合が多く、学校によってシステムが変わるので、募集要項等で各自確認する必要があります。

② 選考方法について

書類審査＋学科試験が中心となるが、短大を中心に学科試験の代わりに小論文や面接の場合もあります。学科試験は大学が2教科、短大は1科目の場合が多い。

短大保育幼児教育系では実技（ピアノ・美術・体育）のある学校もあり、実技がない代わりにピアノのレベルに条件を設定しているところもあります。

③ 入試までの流れについて

出願開始は原則として11月1日以降で、手続きは各自で行います。

大学の場合、11月頃に推薦前期、12月初めに推薦後期と2回入試が行われる学校も多いです。その場合、一般的に前期の方が定員は多く、難易度も低くなります。

複数日受験を取っている学校や、入試科目にいくつかのパターンを設定している学校もあるので、自分に向けたパターンを良く考えて出願する必要があります。

※ 学校案内や入試要項、出願書類の取り寄せは各自で行います。期日に間に合うように、早め早めの行動を取るようしてください。

(4) 一般選抜

一般選抜は基本的には1月以降に実施され、出願の条件はありません。（一部大学は年内に出願を開始する場合があります。）

学科試験のみで合否判定が行われ、大学は3教科・短大は2教科が中心です。複数日入試や配点を変えての入試など多様なパターンを設定している学校も多いのでしっかりと調べておく必要があります。

(5) 大学入学共通テスト（旧センター試験）利用入試

① 大学入学共通テストとは

もともとは国公立大学の1次試験でしたが、最近ではほとんどの私立大学や一部短大でも大学入学共通テスト利用入試が行われています。

今年度は2022年1月15日（土）、16日（日）に実施される予定です。

② 私立大学受験で大学入学共通テストを利用するメリット

一度共通テストを数科目受けておくと、何校でも出願のみで合否判定がされます。

私立大学の場合、自分が受けた科目のうち高得点2科目や、指定1科目+高得点1科目で判定してくれる場合が多く、一般入試の受験科目が苦手な場合でも他の科目で挽回できることがあります。

出願料も他の入試制度に比べて安く、共通テストの自己採点を行った後、予備校等のデータを元に出願できる学校も多くあります。（ただし、共通テスト直前に出願を締め切る大学が増えています。）

ただし、自分の得意科目で勝負できるぶん、超難関大学を突破する力がある人が滑り止めとして利用するなど他の人と比較して突出して高い得点を取らなければならず、現実的には利用してしても必ず有利になるとはいえません。

③ 大学入学共通テストを受ける場合の注意点

7月中旬に大学入学共通テスト説明会、9月初旬に願書配布説明会を行いますので、希望者は必ず出席する必要があります。（詳細は後日クラス掲示で連絡します。）

共通テストの出願は現役高校生の場合、個人ではできません。受験料は各自で振り込みますが、願書は学校で一括して発送します。

(6) 国公立二次入試

1月中旬に行われる共通テストを、希望する大学が指定した教科・科目にそって受験し、自己採点・予備校の集計データ等を元に出願を行います。

出願は前期と後期（一部公立大学は中期）各1大学にできますが、出願期間は基本的に1月下旬と同じです。前期に合格した場合、入学手続き（後期の入試の前に発表手続きがある）をすれば後期には合格できません。

2月下旬に前期入試、3月初めに発表、その後3月中旬にかけて中期入試、後期入試が行われ、後期の発表は3月下旬という長丁場になります。

(7) その他の入試の基礎知識

上記のほか、スポーツ推薦入試、有資格者入試（摂南大学外国語学部・英検準2級以上など）、特技推薦、女子特別推薦（阪南大学など）、同窓生子女推薦等、さまざまな制度があります。オープンキャンパスなどで各自調べてみて下さい。

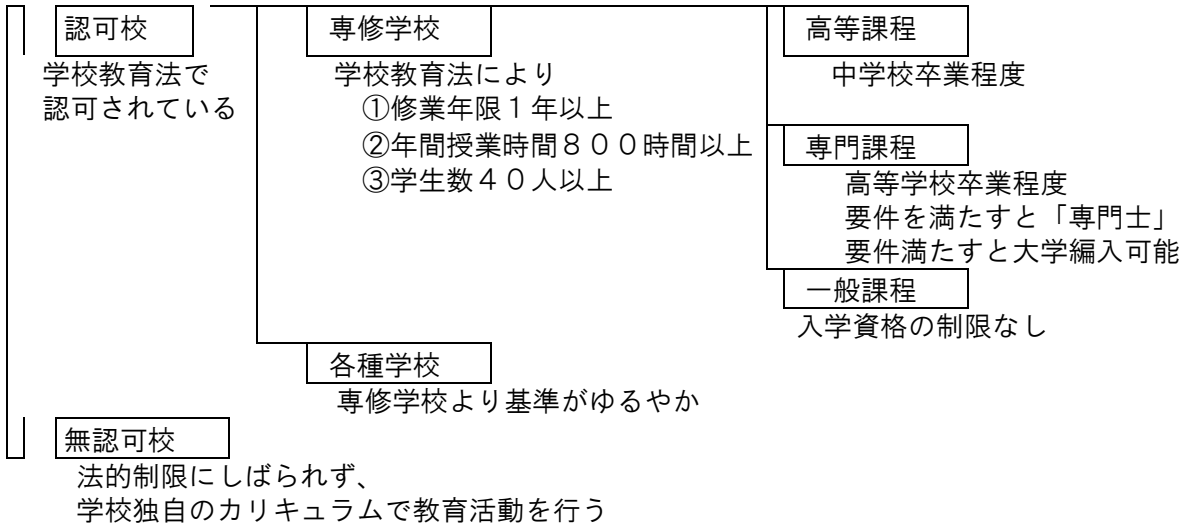
— 10期生結果（大学短大） —

学校名	総合型	指定校	公 募	一 般	合 計
大阪大谷大学		4			4
大阪観光大学		1			1
大阪経済法科大学		1			1
大阪産業大学		3			3
大阪人間科学大学		1			1
河崎リハビリテーション大学	1	2			3
関西医療大学	1				1
関西福祉化学大学		1			1
四天王寺大学	3	1			4
相愛大学		3			3
太成学院大学		1			1
帝塚山学院		1			1
羽衣国際大学	1	2			3
阪南大学		3			3
桃山学院教育大学		1			1
桃山学院大学		2			2
大学合計	6	27	0	0	33
藍野大学短期大学	1				1
大阪芸術大学短期大学部		1			1
大阪健康福祉短期大学	1	3			4
大阪国際大学短期大学部		1			1
大阪国際大学短期大学部		1			1
大阪城南女子短期大学	2				2
大阪女学院短期大学		1			1
大阪千代田短期大学	1				1
関西外国語大学短期大学部			1		1
キリスト教短期大学		1			1
城南女子短期大学	1				1
常磐会短期大学	3	1			4
夕陽丘学園短期大学	1	1			2
和歌山信愛女子短期大学	1				1
短期大学合計	11	10	1	0	22

3. 専門学校について

専門学校は大学や短大と違い『実践的な職業能力を身につけ、資格取得を目標とする』ところ。どんな専門学校に進学するかは、将来就きたい仕事によって異なります。学校で専門能力をいかに身につけ、卒業後にその能力を活かせるかが重要になります。実習や実技をとまなう学校であれば、その分学費も高くなります。

(1) 専修学校・各種学校・スクール（無認可校）のちがい



※ 専門学校とは認可校で専修学校で専門課程のことです。

日本学生支援機構の奨学金を利用できるか、通学定期が買えるかなど、あらかじめきちんと調べておいて下さい。

(2) 専門学校の分野について

分野	学科例
工業系	建築・土木・測量・インテリア・エクステリア・機械・電気 電子・通信・無線・音量・自動車整備・情報処理・コンピューター ・バイオテクノロジー 他
農業系	農業・園芸・造園・環境・水産・動物・水族館・ペット 他
医療系	看護・歯科衛生士・歯科技工士・臨床検査・理学療法・柔道整復・ 作業療法・指圧・救急救命・視能訓練 他
衛生系	調理・栄養・製菓・理容・美容・エステティック 他
教育/社会福祉系	幼児教育・保育・介護福祉・社会福祉・ホームヘルパー 他
商業実務系	経営・経理・ビジネス・観光・ホテル・医療秘書 他
服飾/家政系	ファッション・スタイリスト・和裁・着物 他
文化/教養系	アニメ・漫画・声優・ブライダル・外国語・警察官・消防官・ 公務員・デザイン・写真 他

(3) 資格について

「国家資格」・・・知識や技術が一定水準以上に達していることを国に認められる。

「公的資格」・・・国家資格に準ずる資格で信用度や知名度が高いものが多い。

「民間資格」・・・認知される信用度などが高いほど資格取得が困難。

ただし、法律により制度化されていないので注意も必要。

- ① 専修学校を卒業することで取得できる
栄養士・調理師・保育士・幼稚園教諭2種 など
- ② 専修学校卒業と同時に受験資格を取得できる
自動車整備士（2級）・看護師・理学療法士・歯科衛生士・柔道整復士・
介護福祉士*・美容師など *注意
- ③ 専修学校卒業後一定の実務経験で取得できる
測量士・第3種電気主任技術者など
- ④ 専修学校卒業後一定の実務経験で受験資格を取得できる
2級土木施工管理技士・社会福祉士など
- ⑤ 専修学校卒業により試験の一部が免除される
第2種電気工事士・・・筆記試験免除 など
- ⑥ 専修学校において受験のための教育がなされている
司法書士・行政書士・販売士検定・秘書検定・診療情報管理士 など

* 専門学校への進学を考えるなら・・・

- ① 将来の職業を決めるつもりで選ぶ！
- ② 自分の適性を考える
- ③ 複数校のオープンキャンパスに参加する（1校だけで判断しない）
- ④ 学費等を準備する
（「日本学生支援機構」の奨学金を利用する場合、進学先で利用できるかどうかを確認してください）
- ⑤ じっくり・しっかり考えて決断する！